

# 国土数值情報（中学校区）

## 製品仕様書

### 第 1.1 版

---

平成 26 年 3 月

国土交通省国土政策局

---

## 【改定履歴】

版	更新日	改定内容
第 1.0 版	2013 年 3 月	初版
第 1.1 版	2014 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設置主体，名称，通学区域，通学区域ファイル名の多重度を [0..1] に修正した。</li><li>・ 属性「原典資料種別」、「境界種別」を追加した。</li><li>・ 白地地区、避難指示区域の取り扱いを追記した。</li></ul>

# 目次

1 概覧.....	1
1.1 空間データ製品仕様書の作成情報.....	1
1.2 目的.....	1
1.3 適用範囲.....	1
1.4 引用規格.....	2
1.5 用語と定義.....	2
1.6 略語.....	3
1.7 参考資料.....	3
2 適用範囲.....	4
2.1 適用範囲識別.....	4
2.2 階層レベル.....	4
3 データ製品識別.....	4
3.1 製品仕様識別.....	4
4 データ内容および構造.....	5
4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書.....	5
4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ.....	5
4.1.2 指定地域パッケージ.....	6
4.1.3 中学校区パッケージ.....	7
4.1.4 共通パッケージ.....	10
4.2 空間スキーマプロファイル.....	10
4.3 時間スキーマプロファイル.....	10
5 参照系.....	10
5.1 座標参照系.....	10
5.2 時間参照系.....	10
6 データ品質.....	11
7 データ製品配布.....	16
7.1 配布書式情報.....	16
7.2 配布媒体情報.....	16
8 メタデータ.....	17
付属資料-1 符号化仕様作成のためのタグ一覧.....	1
付属資料-2 符号化仕様.....	2

## 1 概覧

### 1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：国土数値情報（中学校区）製品仕様書 第 1.1 版
- 日付：2014 年 3 月 3 日
- 作成者：国土交通省 国土政策局 国土情報課
- 言語：日本語
- 分野：施設
- 文書書式：PDF

### 1.2 目的

国土数値情報は、国土形成計画，国土利用計画などの国土計画の策定や実施の支援のために作られたものであるが，各分野で広く利用されることも想定している。

本データは，全国の中学校区のデータを整備したものである。

### 1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲  
日本全国
- 時間範囲  
2013 年 9 月 1 日時点

## 1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格から引用する。

- 地理情報標準プロファイル（JPGIS）第 2.1 版 平成 21 年 5 月

## 1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用される専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

- 地理情報標準プロファイル（JPGIS）第 2.1 版「附属書 5（規定） 定義」

- 国土交通省国土政策局 GIS ホームページ ガイダンス

URL : <http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/gis/guidance/index.html>

- 中学校区

中学校区とは、当該中学校に通学する児童・生徒の居住地について、市区町村の教育委員会等が指定する中学校別の一定の通学範囲となる「通学区域」をいう。

また、全国各地においては「学区」「校区」「校下」も同義語にあたる。

なお、通学区域が広範囲等により範囲が限定しにくい「私立中学校」「特別支援学校」「国立大学の附属中学校」等は、当該中学校区の対象に含まない。

- 公立中学校

公立中学校とは、主に地方公共団体（市区町村及びその組合）が設置する中学校をいう。

中学校は、「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すこと」（学校教育法第 45 条）を目的として設置された施設である。

- 通学区域

通学区域とは、市区町村の教育委員会等が通学すべき学校を指定する児童・生徒の居住地の一定の範囲をいう。

学校教育法施行令において、市町村の教育委員会は、当該市町村の設置する中学校が二校以上ある場合においては、通知において当該就学予定者の就学すべき中学校を指定しなければならないと定めている。

なお、通学区域が運用等により限定しにくい「区域外就学」「学校選択制」「指定変更許可」等は、当該対象に含まない。

## 1.6 略語

本製品仕様書で使用される略語は、以下のとおりとする。

- JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards
- JMP Japan Metadata Profile
- UML Unified Modeling Language

## 1.7 参考資料

国土数値情報で使用されるコードリスト等については、以下のサイトを参照。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL : <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>

## 2 適用範囲

---

本製品仕様書の適用範囲は次のとおりとする。

### 2.1 適用範囲識別

国土数値情報（中学校区）製品仕様書第 1.1 版適用範囲

### 2.2 階層レベル

データ集合

## 3 データ製品識別

---

### 3.1 製品仕様識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

- 空間データ製品の名称  
国土数値情報（中学校区）データ
- 日付  
2014 年 3 月 3 日
- 問合せ先  
国土交通省 国土政策局 国土情報課  
電話：03-5253-8111 FAX：03-5253-1569  
Email：nsdijp@mlit.go.jp
- 地理記述  
全国

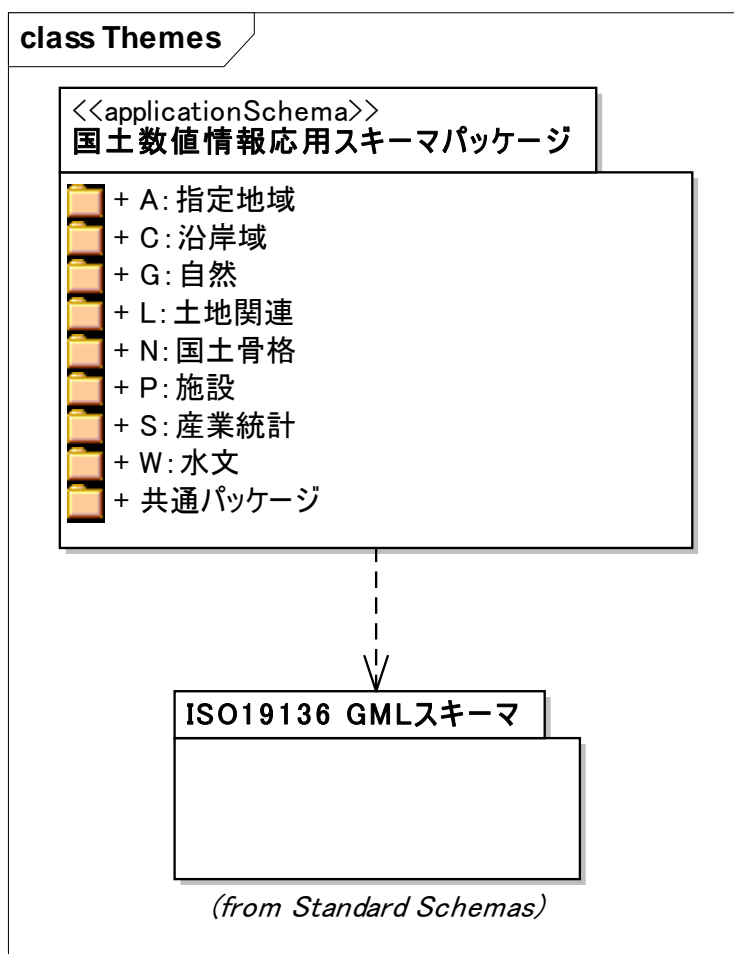
## 4 データ内容および構造

本章では，本製品仕様書が扱う国土数値情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

### 4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

#### 4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

このパッケージは，国土数値情報応用スキーマを構成する各パッケージの依存関係を示したものである。国土数値情報応用スキーマは，国土数値情報を分類したパッケージと，国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめた共通パッケージより構成される。国土数値情報応用スキーマに含まれる地物およびメッシュは，指定地域や沿岸域等のカテゴリにおいて定義される。





### 4.1.2 指定地域パッケージ

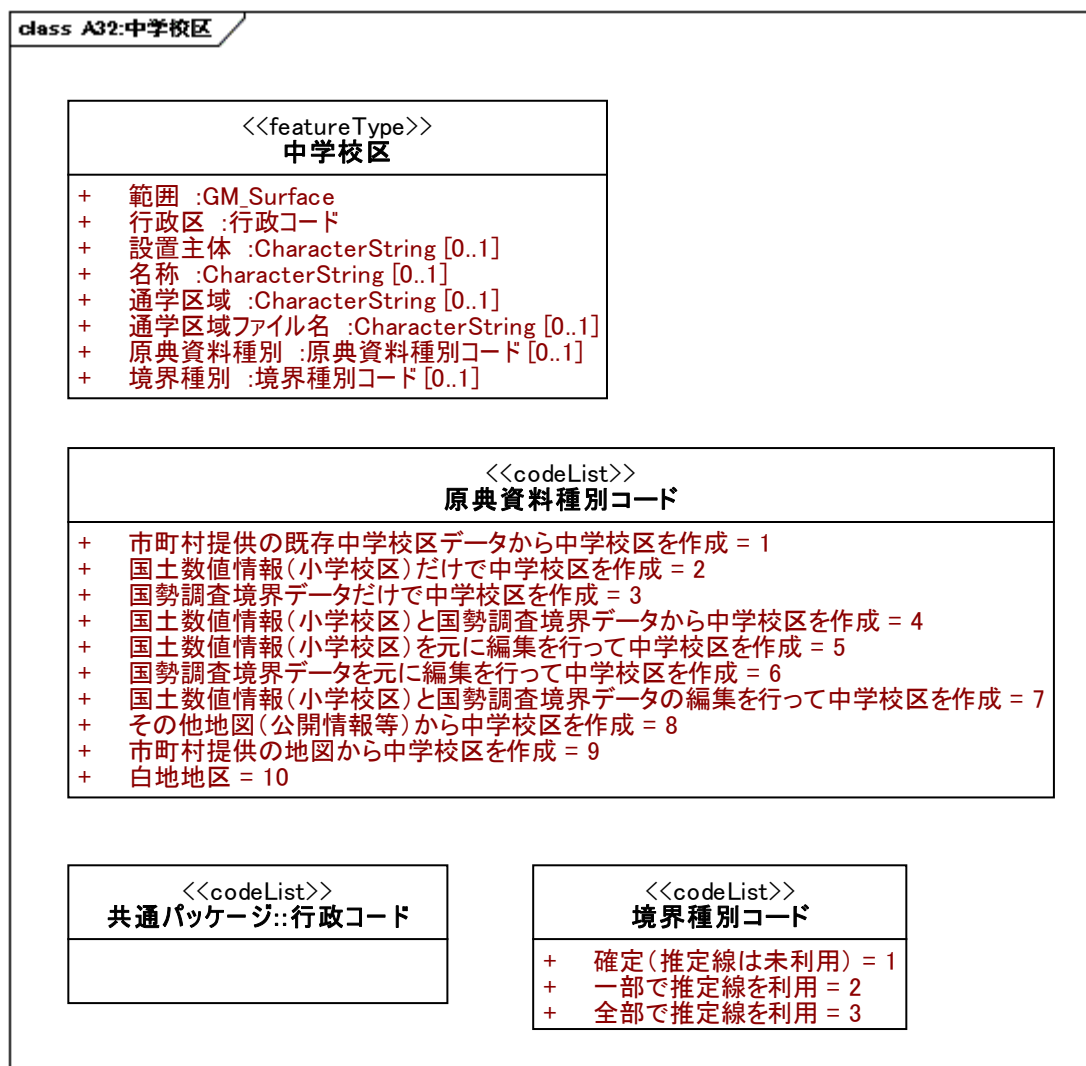
このパッケージは、指定地域に関するパッケージをまとめたものである。

class A: 指定地域			
<<applicationSchema>> A02-a: 指定地域3次メッシュ	<<applicationSchema>> A02-b: 指定地域細分メッシュ	<<applicationSchema>> A03: 三大都市圏計画区域	<<applicationSchema>> A05: 森林・国有地メッシュ
<<applicationSchema>> A07: リゾート指定地域	<<applicationSchema>> A09: 都市地域	<<applicationSchema>> A10: 自然公園地域(H18)	<<applicationSchema>> A10(H22): 自然公園地域
<<applicationSchema>> A11: 自然保全地域	<<applicationSchema>> A13: 森林地域	<<applicationSchema>> A15: 鳥獣保護区域	<<applicationSchema>> A12: 農業地域
<<applicationSchema>> A16: 人口集中地区	<<applicationSchema>> A17: 過疎地域	<<applicationSchema>> A18: 半島振興対策実施地域	<<applicationSchema>> A19: 離島振興対策実施地域
<<applicationSchema>> A20: 奄美群島	<<applicationSchema>> A21: 小笠原諸島	<<applicationSchema>> A22: 豪雪地帯	<<applicationSchema>> A23: 特殊土壌地帯
<<applicationSchema>> A24: 振興山村	<<applicationSchema>> A25: 特定農山村地域	<<applicationSchema>> A26: 土砂災害危険箇所	<<applicationSchema>> A27: 小学校区
<<applicationSchema>> A28: 世界自然遺産	<<applicationSchema>> A32: 中学校区	<<applicationSchema>> A33: 土砂災害警戒区域	

### 4.1.3 中学校区パッケージ

このパッケージは、中学校区に関する内容をまとめたものである。

#### 4.1.3.1 応用スキーマクラス図



## 4.1.3.2 応用スキーマ文書

## 中学校区

当該中学校に通学する児童・生徒の居住地について、市区町村の教育委員会等が指定する中学校別の一定の通学範囲となる「通学区域」をいう。

また、全国各地においては「学校区」「学区」「校区」「校下」も同義語にあたる。

なお、通学区域が広範囲等により範囲が限定しにくい「私立中学校」「特別支援学校」「国立大学の附属中学校」等は、当該中学校区の対象に含まない。

上位クラス：

---

抽象/具象区分：具象

---

属性

---

範囲：GM\_Surface

当該通学区域の範囲。

■ 取得基準

面で取得する。

図形の起終点は一致させる。

行政区：行政コード

都道府県コードと市区町村コードからなる、中学校が存在する行政区を特定するためのコード。

JIS 規格（JIS X 0401, JIS X 0402）に準拠する。

■ 定義域

JIS 規格が定める 5 桁のコード値。

設置主体：CharacterString [0..1]

当該中学校の設置主体（例：〇〇市）。

避難指示区域の場合記入しない。

名称：CharacterString [0..1]

当該中学校の名称（例：□□中学校。〇〇市立は記載しない）。

白地地区の場合は、「白地」と記述する。

避難指示区域の場合は記入しない。

通学区域：CharacterString [0..1]

中学校区を示す範囲を特定するための地理識別子（例：□□町 1 丁目，□□町 2 丁目）を含む自由記述。

白地地区の場合は不要とする。

避難指示区域の場合は、「避難指示区域に該当するため未作成」と記述する。

通学区域ファイル名：CharacterString [0..1]

行政区、設置主体、名称、通学区域が記述された csv ファイルの名称。

行政区、設置主体、名称をアンダーバーで繋ぎ、拡張子「.csv」を付けて記述する。（例：xxxxx\_〇〇市\_□□中学校.csv）

白地地区、避難指示区域の場合は不要とする。

原典資料種別：原典資料種別コード [0..1]

データ作成に用いた中学校区資料を特定するためのコード。

避難指示区域の場合は不要とする。

■ 定義域

1～10 のうちの該当する値。

1～10 の内容は、「原典資料種別コード」（下表）を参照。

コード	対応する内容
1	市町村提供の既存中学校区データから中学校区を作成
2	国土数値情報（小学校区）だけで中学校区を作成
3	国勢調査境界データだけで中学校区を作成
4	国土数値情報（小学校区）と国勢調査境界データから中学校区を作成
5	国土数値情報（小学校区）を元に編集を行って中学校区を作成
6	国勢調査境界データを元に編集を行って中学校区を作成
7	国土数値情報（小学校区）と国勢調査境界データの編集を行って中学校区を作成
8	その他地図（公開情報等）から中学校区を作成
9	市町村提供の地図から中学校区を作成
10	白地地区

境界種別：境界種別コード [0..1]

通学区域の境界が、確定線と推定線のどちらであるか特定するためのコード。

避難指示区域の場合は不要とする。

■ 定義域

1～3 のうちの該当する値。

1～3 の内容は、「境界種別コード」（下表）を参照。

コード	対応する内容
1	確定（推定線は未利用）
2	一部で推定線を利用
3	全部で推定線を利用

#### 4.1.4 共通パッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリストをまとめたものである。

コードリストについては、本製品仕様書「1.7 参考資料」の参照先を参照。

## 4.2 空間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル（JPGIS）第 2.1 版 空間スキーマ」を採用する。

## 4.3 時間スキーマプロファイル

国土数値情報の時間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル（JPGIS）第 2.1 版 時間スキーマ」を採用する。

## 5 参照系

### 5.1 座標参照系

参照系識別子：JGD2000 /(B, L)

### 5.2 時間参照系

参照系識別子：GC/JST

## 6 データ品質

品質要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	中学校区
データ品質評価尺度	<p>データ集合と、参照データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合内に存在する過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。</p> <p>次の場合エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対応関係がとれない地物がデータ集合内に存在する場合。</li> <li>・データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余分なデータの個数をすべてエラーとして数える。</li> </ul> <p>誤率 (%) = (過剰なデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照データは、原典資料または監督員が指定する資料とする。</li> <li>・地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</li> <li>・データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</li> <li>・計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</li> </ul> <p>誤率=0% であれば“合格” 誤率&gt;0% であれば“不合格”</p>
適合品質水準	過剰なデータの割合：0%

品質要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	中学校区
データ品質評価尺度	<p>データ集合と、参照データ同士の一対一の比較を行い、対応が成立した個数を数え、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。</p> <p>次の場合エラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照データと対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。</li> </ul> <p>誤率 (%) = (漏れのデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照データは、原典資料または監督員が指定する資料とする。</li> <li>・地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。</li> <li>・データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。</li> <li>・計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。</li> </ul> <p>誤率=0% であれば“合格”</p>

	誤率>0% であれば“不合格”
適合品質水準	データの漏れの割合：0%

品質要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合の書式（フォーマット）が、整形形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）の割合（誤率）を計算する。データ集合は、整形形式の XML 文書（Well-Formed XML）でなければならない。
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 データ集合のファイルの書式が XML の文法（構造）に適合しているか、検査プログラムによって評価する。 一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
適合品質水準	XML 文書の構文のエラーの割合：0%

品質要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	符号化仕様が規定する XML スキーマに対する、データ集合に存在する矛盾の割合（誤率）を計算する。データ集合は、妥当な XML 文書（Valid XML document）でなければならない。 XML スキーマに対する XML 文書の妥当性の検査に加え、次の項目についても検査する。 ■地物に関する検査項目 地物インスタンスの型（地物型）が、応用スキーマが規定する地物型と合致しない場合エラーとする。 ■空間スキーマプロファイルに関する検査項目 データ集合内のどの地物インスタンスからも参照されない幾何要素が存在する場合、エラーとする。
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 応用スキーマを表現する XML スキーマとデータ集合に矛盾がないか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。
適合品質水準	符号化仕様の XML スキーマに対する矛盾の割合：0%

品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	<p>地物属性インスタンスの値が、応用スキーマに規定される定義域の範囲に含まれていない場合、その個数をエラーとして数え、その割合（誤率）を計算する。</p> <p>以下の場合エラーとする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空間属性及び時間属性が、適用範囲内に含まれない場合。</li> <li>・コードリストで表わされる主題属性の値が、定義されたコードリストの値に含まれない場合。</li> </ul> <p>誤率 (%) = (定義域外の値をもつ地物属性の数 / データ集合内の地物属性の総数) × 100</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <p>属性の値が、主題属性の定義域並びに地物の空間及び時間範囲の定義域の中にあるか、検査プログラムによって検査する。一つ以上のエラーがあれば、“不合格”とする。</p>
適合品質水準	地物属性の定義域一貫性のエラーの割合：0%

品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	<p>地物インスタンスが、閉じていない場合にエラーとしてその個数を数え、その割合を計算する。以下の場合にエラーとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地物インスタンスの起終点が一致せず閉じていない場合。</li> </ul> <p>誤率 (%) = (エラー地物の数 / 地物属性の総数) * 100</p>
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	<p>隣接地物インスタンス同士が、交差するもしくは離れている場合にエラーとしてその個数を数え、その割合を計算する。以下の場合にエラーとする。</p> <p>ただし、交差するもしくは離れている根拠がある場合は、例外として許容する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接地物インスタンス同士が、交差している場合。</li> <li>・隣接地物インスタンス同士の間が、離れている場合。</li> </ul> <p>誤率 (%) = (エラー地物の数 / 地物属性の総数) * 100</p>
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%



品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物インスタンスが、自己交差している場合にエラーとしてその個数を数え、その割合を計算する。以下の場合にエラーとする。 ・地物インスタンスを構成するラインが、自己交差している場合。 誤率 (%) = (エラー地物の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

品質要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	中学校区
データ品質評価尺度	地物と原点資料等を重ねてディスプレイ上または出力図に表示し、原典資料と比較し、位置のズレの最大値を測定する。
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 ・位置の座標と参照データの座標との誤差を測定する。 ・誤差の最も大きい値と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 “適合品質水準 ≥ 位置のズレの最大値”であれば“合格” “適合品質水準 < 位置のズレの最大値”であれば“不合格”
適合品質水準	水平位置の標準偏差：25m

品質要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	中学校区
データ品質評価尺度	データ集合と、参照データ同士の一対一の比較を行い、データ集合内に存在する誤った地物属性インスタンス（エラー）の割合（誤率）を計算する。 次の場合、エラーとする。 ・地物属性“市区町村コード”の内容が正しくない場合。 ・地物属性“設置主体”の内容が正しくない場合。 ・地物属性“名称”の内容が正しくない場合。 ・地物属性“所在地”の内容が正しくない場合。 誤率 (%) = (地物属性のエラー数 / 検査した地物属性の総数) × 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。 ・参照データは、原典資料または監督員が指定する資料とする。 ・地物属性の値が識別できるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタ

	<p>ンス) を表示又は出力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ品質評価尺度に基づき，誤率を計算する。</li> <li>・計算した誤率と適合品質水準を比較し，以下の判定式に基づき合否を判定する。</li> </ul> <p>“適合品質水準<math>\geq</math>誤率”であれば“合格”</p> <p>“適合品質水準<math>&lt;</math>誤率”であれば“不合格”</p>
適合品質水準	非定量的な主題属性のエラーの割合：0%

## 7 データ製品配布

### 7.1 配布書式情報

#### ■ 書式名称

JPGIS 第 2.1 版 附属書 12（規定）地理マーク付け言語（GML）

#### ■ 符号化仕様

国土数値情報応用スキーマの XML Schema は、JPGIS 第 2.1 版 附属書 12 の符号化規則に従う。また、国土数値情報応用スキーマが参照する基本データ型スキーマ、空間スキーマ、時間スキーマ等の標準スキーマの XML Schema は、次の URL に掲載されている XML Schema を使用する。

[http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO\\_19136\\_Schemas/](http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/)

国土数値情報（中学校区）応用スキーマの XML Schema で使用する名前空間および名前空間接頭辞は次のとおりとし、XML Schema については付属資料を参照のこと。

名前空間：<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app>

名前空間接頭辞：ksj

#### ■ 文字集合

UTF-8

#### ■ 言語

日本語を使用する。

### 7.2 配布媒体情報

#### ■ 単位

都道府県

#### ■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、国土数値情報を無償で一般公開している。

国土数値情報ダウンロードサービス（JPGIS 準拠データ）

URL：<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>

## 8 メタデータ

---

本製品仕様書のメタデータは、**JMP2.0**を採用する。

# 国土数值情報（中学校区）製品仕様書 第1.1版

---

## 付属資料

付属資料-1 符号化仕様作成のためのタグ一覧

	クラス	属性・関連役割	型	タグ名	英語名
施設	PXX: 中学校区				
	中学校区			PublicJuniorHighSchoolArea	Public Junior High School Area
		範囲	GM_Surface	area	area
		行政区	行政コード	administrativeArea	administrative area
		設置主体	CharacterString	installationSubject	installation subject
		名称	CharacterString	name	Name
		通学区域	CharacterString	schoolDistrict	school district
		通学区域ファイル名	CharacterString	schoolDistrictFileName	school district file name
		原典資料種別	原典資料種別コード	originalDataType	original data type
	境界種別	境界種別コード	boundaryType	boundary type	

## 付属資料-2 符号化仕様

---

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsd:schema xmlns:ksj="http://nftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app"
xmlns:gml="http://www.opengis.net/gml/3.2" xmlns:sch="http://www.ascc.net/xml/schematron"
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
targetNamespace="http://nftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app" elementFormDefault="qualified"
version="4.0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>中学校区</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
  <!-- 外部参照 -->
  <xsd:import namespace="http://www.opengis.net/gml/3.2"
schemaLocation="http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/
gml.xsd"/>
  <xsd:include schemaLocation="Ksj_Common.xsd"/>
  <!-- 基底要素 -->
  <xsd:element name="Dataset">
    <xsd:complexType>
      <xsd:complexContent>
        <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
          <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
            <xsd:element ref="gml:AbstractGML"/>
            <xsd:element ref="gml:CompositeValue"/>
          </xsd:choice>
        </xsd:extension>
      </xsd:complexContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
  <!-- 要素定義 -->
  <xsd:element name="PublicJuniorHighSchoolArea"
type="ksj:PublicJuniorHighSchoolAreaType" substitutionGroup="gml:AbstractFeature"/>
  <xsd:complexType name="PublicJuniorHighSchoolAreaType">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>中学校区</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:complexContent>

```

```

<xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="area" type="gml:SurfacePropertyType">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>範囲</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="administrativeArea" type="gml:CodeType">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>行政区</xsd:documentation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:defaultCodeSpace>AdministrativeAreaCode.xml</gml:defaultCodeSpace>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="installationSubject" type="xsd:string" minOccurs="0">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>設置主体</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="name" type="xsd:string" minOccurs="0">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>名称</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="schoolDistrict" type="xsd:string" minOccurs="0">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>通学区域</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="schoolDistrictFileName" type="xsd:string" minOccurs="0">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>通学区域ファイル名</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="originalDataType" type="ksj:OriginalDataType" minOccurs="0">

```



```

    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>原典資料種別</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
  </xsd:element>
</xsd:sequence>
<xsd:element name="boundaryType" type="ksj:BoundaryType" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>境界種別</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="PublicJuniorHighSchoolAreaPropertyType">
  <xsd:sequence minOccurs="0">
    <xsd:element ref="ksj:PublicJuniorHighSchoolArea"/>
  </xsd:sequence>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:OwnershipAttributeGroup"/>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="PublicJuniorHighSchoolAreaMemberType">
  <xsd:complexContent>
    <xsd:extension base="gml:AbstractMemberType">
      <xsd:sequence minOccurs="0">
        <xsd:element ref="ksj:PublicJuniorHighSchoolArea"/>
      </xsd:sequence>
      <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
    </xsd:extension>
  </xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<xsd:simpleType name="OriginalDataType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>原典資料種別コード</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
  <xsd:union memberTypes="ksj:OriginalDataTypeEnumType
ksj:OriginalDataTypeOtherType"/>

```

```
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="OriginalDataTypeEnumType">
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>原典資料種別コード</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:enumeration value="1">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>市町村提供の既存中学校区データから中学校区を作成</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
    <xsd:enumeration value="2">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>国土数値情報（小学校区）だけで中学校区を作成</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
    <xsd:enumeration value="3">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>国勢調査境界データだけで中学校区を作成</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
    <xsd:enumeration value="4">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>国土数値情報（小学校区）と国勢調査境界データから中学校区を作成
</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
    <xsd:enumeration value="5">
```

```

<xsd:annotation>
  <xsd:appinfo>
    <gml:description>国土数値情報(小学校区)を元に編集を行って中学校区を作成
</gml:description>
  </xsd:appinfo>
</xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="6">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>国勢調査境界データを元に編集を行って中学校区を作成</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="7">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>国土数値情報(小学校区)と国勢調査境界データの編集を行って中学校区を
作成</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="8">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>その他地図(公開情報等)から中学校区を作成</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="9">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>市町村提供の地図から中学校区を作成</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>

```

```
<xsd:enumeration value="10">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>白地地区</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
</xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="OriginalDataTypeOtherType">
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:pattern value="other: ¥w{2,}"/>
  </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="BoundaryType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>境界種別コード</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
  <xsd:union memberTypes="ksj:BoundaryTypeEnumType ksj:BoundaryTypeOtherType"/>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="BoundaryTypeEnumType">
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>境界種別コード</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:enumeration value="1">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>確定（推定線は未利用）</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
    <xsd:enumeration value="2">
      <xsd:annotation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:description>一部で推定線を利用</gml:description>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:enumeration>
  </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
```

```

</xsd:appinfo>
</xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
<xsd:enumeration value="3">
  <xsd:annotation>
    <xsd:appinfo>
      <gml:description>全部で推定線を利用</gml:description>
    </xsd:appinfo>
  </xsd:annotation>
</xsd:enumeration>
</xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="BoundaryTypeOtherType">
  <xsd:restriction base="xsd:string">
    <xsd:pattern value="other: ¥w{2,}"/>
  </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:schema>

```